

社の空間構成に関する研究 その 7 神社の水上鳥居とその参道空間について Study on space structure 7 on the Yashiro

About the overwater Torii of the Shinto shrine and the approach to a shrine space

佐藤信治¹○戸田寛康²ShinjiSato¹*HiroyasuToda²

I limit it that the Torii which is one of the facilities of the Shinto shrine is underwater and I read a Torii and the relations of the main shrine and untie it. Solar movement, the sunrise, relations of the sunset were big, and, from a past study, the Shinto shrine and the placement of the object of worship, the position where a Shinto shrine was enshrined again knew what I was concerned with. As for this study, Torii established underwater investigated the relations with the Shinto shrine

1.はじめに

日本全国に 8 万社あるといわれている神社。それは日本人のルーツや生活習慣、暮らしに深く根付いているにも関わらず、今まで思いもつかなかった深い魅力や、知られていない役割がある。本研究においては神社の入口としての機能である鳥居が池、沼、河川、湖、海に囲まれている鳥居を水上鳥居と定義する。そしてそのような水上鳥居と本殿の関係を読み解いていくものである。

2.研究対象

研究対象として神社の鳥居が水中及び水に面するものに限定し、鳥居と本殿が同程度の距離をもったものとする。調査規模は全国の神社、寺院とする。対象は厳島神社、磯前神社、鹿島神宮、息栖神社、森戸神社、筑前二身ヶ浦鳥居、白髭神社、箱根神社、薦神社、東大寺、大池寺、龍神社、大村神社、御座石神社、香取神宮、木嶋神社、諸口神社および弁天神社をはじめとする計 16 社、20 基とする。

3.調査項目

鳥居から本殿までの参道の調査項目として以下の項目を設ける。

3.1 立地（社殿）

対象寺社の本殿の所在地。

3.2 立地（鳥居）

対象寺社の鳥居の所在地。

3.3 系統

対象寺社が寺院、神社かを判別する。

3.4 創建（本殿）

本殿の創建時期を記載する。

3.5 緯度経度

鳥居の緯度経度を記載する。

3.6 本殿から鳥居の方角

方角および機首方位を記載する。

3.7 本殿から鳥居の距離

メートル表記により記載する。

3.8 水と関わり

鳥居と水との関わり方を判別する。

4.調査方法

『立地』、『系統』、『創建』、および『水との関わり』については文献、資料等によって有力な情報を収集する。『緯度経度』、『本殿から鳥居の方角』および『本殿からの鳥居の距離』については google earth を用いる。これらにより神社が鎮座している位置から鳥居との関係を調査・統計を行う。

5.統計結果

5.1 分布

調査対象の分布を調査すると、北海道地方 0 基、東北地方 1 基、関東地方 8 基、中部地方 2 基、関西地方 5 基、中国地方 2 基、四国地方 0 基、九州・沖縄地方 2 基となった。大規模な河川が集中する関東地方では鳥居が水に面する傾向があるといえる。

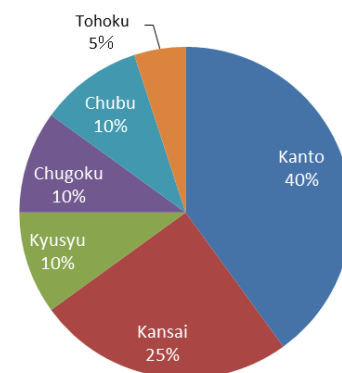


Figure1 National distribution

5.2 創建時期

創建時期においては古い時代から香取神宮において初代神武天皇 18 年（紀元前 643）から、新しいものが大村神社の昭和 21 年（1946 年）とおおきな開きがある。水面に面した鳥居をもった社殿が集中的に創建された時期は 700 年代であり、箱根神社、東大寺が創建された。平均創建時期は 534 年と古墳時代であるがこ

1：日大理工・専任講師・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering,CST,Nihon-U

2：日大理工・学部・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering,CST,Nihon-U

の時代に創建された社殿は 593 年に創建された巖島神社が該当した。

5.3 方位・方角

方位、方角においてはこれまでの研究結果のとおり、本殿から南に面した鳥居が多かった。今回の対象寺院では南南西、西南西に面した鳥居が多く 4 基づつあった。平均機首角度は 215 度である。また对象的に、北に面した鳥居は 2 基あり薦神社、香取神宮である。

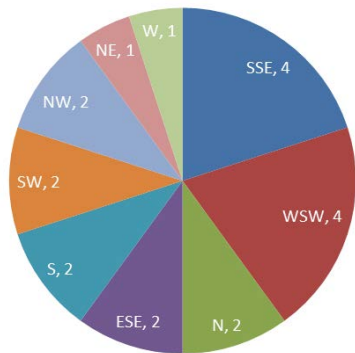


Figure 2 Direction

5.4 距離

本殿から鳥居までの距離は対象寺社において大きな開きがあった。最短のもので 48m の木嶋神社の三柱鳥居である。最長は鹿嶋神宮南の一の鳥居で 9347m あった。平均距離は 1019m であり、該当する鳥居はなかった。

5.5 創建時期と方位の相関

次に相関として創建時期と方位の関係を調査した。創建時期と方位の特徴的な相関はなく、同時期に各方角を面した鳥居が建設されている。なお、紀元前に創建された寺社においては—表記をし、区別した。

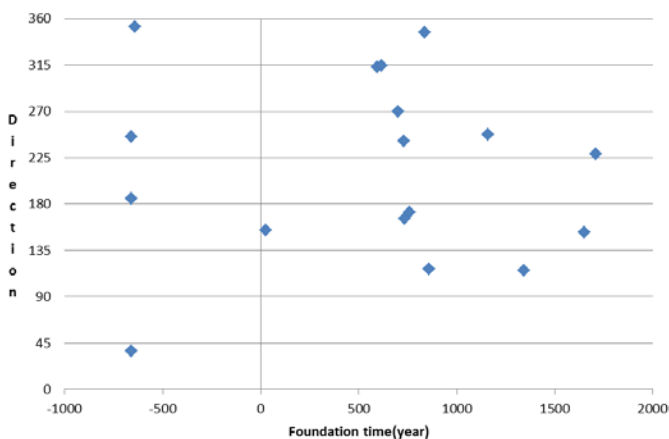


Figure 3 Correlation of foundation time and the direction

5.6 距離と方位の相関

次に距離と方位の相関について調査した。近距離に鳥居を持つ寺社は関係性は希薄といえる。しかし、長距離にある鳥居は西及び北方向に面する傾向があると

いえる。該当する鳥居は鹿嶋神宮西の一の鳥居および香取神宮である。

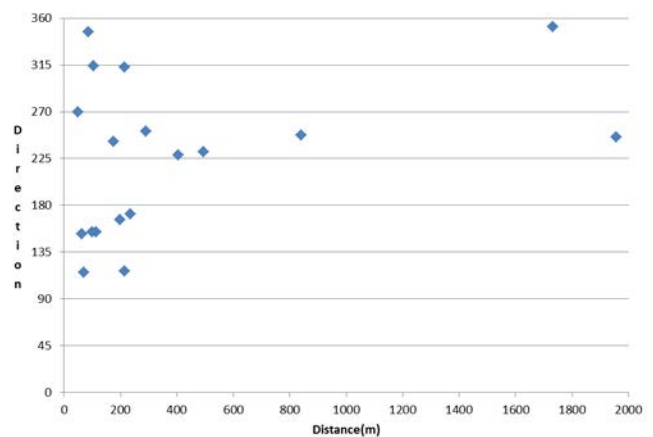


Figure 4 Distance and correlation of the direction

5.7 水との関わり

最後にそれぞれの鳥居がどのような水との関わりを持っているのか調査した。それぞれの鳥居を池、海、河川、湖、港に分類し統計を求めた。最も多かったのは池で全体の 35% の 7 基であり、さらに水中にあるものは 3 基だった。次いで海が全体 25% で 5 基となった。

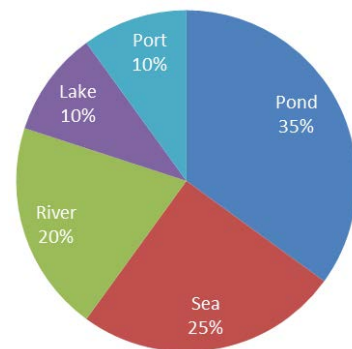


Figure 5 Relation with the water

6. 結論

水上鳥居の分布においては関東、関西地方に多い傾向にある。これは大規模な河川が集中する関東地方では河川による交通網が発達し、海及び河川からの入口を設けている鳥居がある為と考えられる。広大な境内を持つ神社においては相対的に鳥居は遠距離に建立される。そのような鳥居の距離と方位との関係については、本殿を中心として西及び北方向から入る傾向があるといえる。また、今回の対象神社は南南西、西南西方向に面する鳥居が 40% に及んでいる。

7. 参考文献

- [1] google earth [2] 明治・江戸の東京古地図-goo